

## 昭和興産タイランド



山田和彦社長

昭和興産タイランド(山田和彦社長)は化学品や合成樹脂、家電、エレクトロニクス関連や食品分野などで幅広い商材を取り扱っている。今年度上半期(1~6月)は食品分野はやや苦戦したものの、その他の分野が総じて順調に推移しており、全体として目標を上回る実績となっている。

同社の売上げの主力分野の一つである家電はコロナ対策が進む欧米向けの輸出が再開、またエレクトロニクス関連分野はコロナ対策で世界的に広がったテレワークのほか、ネットビジネス拡大の恩恵で通信やPC関連部品のビジネスが引き続き堅調に推移している。加えて昨年開設したベトナム駐在員事務所との医療用ティスホーサブル製品などスディカル分野での新ビジネス開始や、日本の接着材料の代理店活動開始なども寄与し昨年実績を大きく上回っている。

### 3つの戦略目標を推進

今年度は昭和興産の3カ年中期経営計画「SKICHELENGES」の初年度となる。タイ現法は「ベトナム、インドネシアといった伸長が望めるASEAN地区の各拠点との連携によるビジネス拡大」優良なタイ現地企業との取引開拓および深耕「E、V、Xディカル、5G関連など成長産業への新規ビジネス創出」の3つの戦略目標を立て、これらの成就により中計達成を目指す。すでに上半期で成約したビジネスも複数あり、その他も早期成約を狙う。

足元では世界的なデルタ株の拡大で再びサプライチェーンに影響が出ている。需要はあるものの原材料が入手できず生産を縮小している顧客が増加、これにより同社の販売にもマイナスの影響があると思われるが、逆にこれをチャンスと捉え、新たなソースの開拓に努めることで「ウィズ・コロナ」のサプライチェーンの変化に対応する。

タイ、ベトナムとも現地密着型の活動を行いつつ周辺国市場にもチャンスを開く。新規商材についてはインドや中東からの商材仕入れを進めており、これらの他拠点への展開もサポートしていく。